

奈良に古くから伝わるむかしばなしを紹介します。

奈良の
むかし
ばなし

第
40話



猫又の滝

十津川村役場から、樹齢3000年の
神代杉などで知られる玉置神社に向
かう道を、車で約10分上がったところ。
滝つぼに落ちる激しい水音。滝の周辺
は樹木がうっそうと茂ってうす暗い。

猫又の滝

文・山崎しげ子



奈良県の最も南に位置する十津川村。その折立の地に、猫又の滝がある。滝のあたりに尻尾が二つある猫がすんでいたのが名前の由来とか。今回はその滝にまつわるお話。

折立に昔、佐古の三吉という男がいた。ある夏の暑い日、「猫又へ行ってサンショウウオでも釣ってこよう」と出かけた。実は、滝には「主」がすんでいるといわれ、あたりは大木が生い茂って昼でもうす暗く、村人もあまり近寄らないところだった。

滝つぼに糸を垂れて半日たったが、サンショウウオはもちろん、魚一匹釣れない。そのうち三吉は小便をしたくなった。「熱燗でお神酒でも進ぜよう」と、あろうことか、滝つぼめ



玉置神社の秋季祭(10月24日)
玉置山の頂上近く、標高約1000mに鎮座する世界遺産・玉置神社。遠く崇神天皇時代の創建ともいう。秋季祭の、弓を放ち悪魔をはらう「弓神楽」は古式を残して珍しく、神輿のお渡りも圧巻。駐車場には屋台も並び多くの参詣者で賑わう。

玉置神社 ☎0746-64-0500

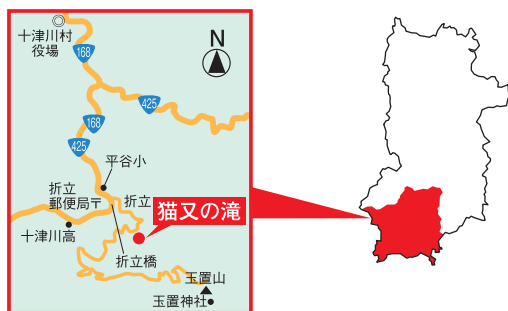
がけて勢いよく小便を飛ばした。ところが、である。突然、晴れていた空はにわかにかき曇り、雷鳴とともに雨、霹靂が降り、風がゴウゴウと吹き出した。

驚いた三吉は釣り道具を放り出し、二目散に村まで逃げ帰った。ところがもう一度びつくり。

そこでは太陽はさんさんと照り、雨が降った気配もない。では、あの猫又でのことは何だったのか。三吉は体が震え、急いで家に帰ると布団にもぐりこんだ。

その夜中のこと、「こらっ、三吉」と、家も揺るがすような大声がして三吉は目を覚ました。枕辺に大きな坊主が立ち、恐ろしい目つきで三吉を見据えている。

物語の場所を訪れよう



「猫又の滝」(十津川村折立)へは…
国道425号の分岐から国道168号を南下して、折立橋の手前を左折。林道を約2km走ると滝前の駐車場へ。

十津川村観光振興課 ☎0746-62-0004

「お前の今日したことは知っていたことか。それなら命をとるぞ。知らずにしたなら目をつぶすぞ」と大声でわめいた。三吉は、「知らずにしたことです。どうか命ばかりはお助けを」と、平身低頭、一心に謝った。

と、しばらくすると、大坊主の姿は消えていた。どうやら命だけは助かった、と三吉は胸をなでおろしたのだった。

その後、三吉は猫又へは二度と行こうとしなかった。村人がからかって「三吉さん、猫又はどうない」と聞いても、「その話はもうやめてくれ」と拜むように言う。村人は「よほどこたえたらしい」と笑いあつたということだ。

十津川かけはしネット

検索